

5 幼児教育・保育サービスの提供と市立幼稚園の今後の方向性について

(1) 本市の幼児教育・保育における市立幼稚園の位置づけ

近年、家族形態の変化や就労形態の多様化など、子どもや子育て環境を取り巻く環境が大きく変化していることから、多様な保育ニーズに応じて適切な子育て支援を行っていくことが求められています。

本市の幼児教育・保育において、現在行われている取り組みとして、私立幼稚園では3歳児保育や預かり保育、通園バスの運行等、保育所（園）では延長保育、一時預かり、病後児保育等、多くの保育サービスがあります。私立幼稚園は、パートタイム労働やフルタイム勤務など保護者の様々な就労形態やそのライフスタイルを支え、多様なニーズに対応してきた実績があることから、今後もこうした役割が期待されています。

一方、市立幼稚園は、公立としての果たすべき役割を明確にし、私立幼稚園との役割分担を図るとともに、発達に課題がある等、特別な支援を要する子どもの受け入れなど、私立幼稚園だけでは難しい部分への対応が求められていることから、教育体制の充実を図るため市立幼稚園を集約し、新たな幼児教育の拠点となる園を目指します。

(2) 市立幼稚園の果たすべき役割

○教育機会の確保

幼稚園教育要領に則った保育を展開し、保護者の子どもに対する教育機会の確保に努めます。

○特別支援教育の充実

発達に課題がある、基本的な生活習慣が身についていない、養育環境に不安があるなど特別な支援を必要とする子どもの受け入れに積極的に取り組むとともに、特別支援教育通級教室の設置によるきめ細かな支援を行います。

○幼児教育の研究

これまで市立幼稚園で積み重ねてきた幼児教育の成果を活かし、保護者への支援、地域との連携など幅広い幼児教育の研究・実践を行い、幼児教育の質の

向上を図るとともに、民間事業者との連携を強化し、就学前児童の小学校への滑らかな接続に取り組みます。

○子育て支援

幼児期の教育に関する相談や支援など、地域における子育て支援の拠点としての機能の充実を図ります。

○定員調整

定員の減員調整は私立側ではなく市立側で担います。

(3) 職員の配置等

市立幼稚園の果たすべき役割として掲げる教育機会の確保、特別支援教育の充実、幼児教育の研究、子育て支援を推進していくためには、人材の適切な配置及び人材育成が重要です。このため、今後、市立幼稚園の再編を進めるにあたって、正規職員をはじめ必要な職員数を計画的に採用するとともに、幼児教育の質の向上を図るため、幼保小の連携を含めた様々な研修等を行うなど、人材育成の充実を図っていきます。

また、園舎等施設についても、快適な教育環境を確保していくため、再編に合わせて計画的な整備等に取り組んでいきます。

6 再編の概要及びスケジュール

これまでみてきたように、園児数が減少し続けていること、教育上、一園当たり一定数以上の園児数が必要なこと、公立として教育体制の充実を図ること、園舎の老朽化に対応することなどから、市立幼稚園の再編を進める必要があります。

そこで、下表の通り勝倉・市毛・高野・那珂湊第二幼稚園については、平成30年度に入園した園児が卒園する平成31年度末に閉園を計画し、併せて休園中の平磯幼稚園も平成31年度末に閉園を計画します。磯崎幼稚園については、那珂湊地区に私立幼稚園がないため、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区小中一貫統合校の開校時期（平成33年度予定）に合わせて、この地区に新たな幼児教育・保育施設として民間事業者による設置を検討する期間を要するため、平成32年度末に閉園を計画します。

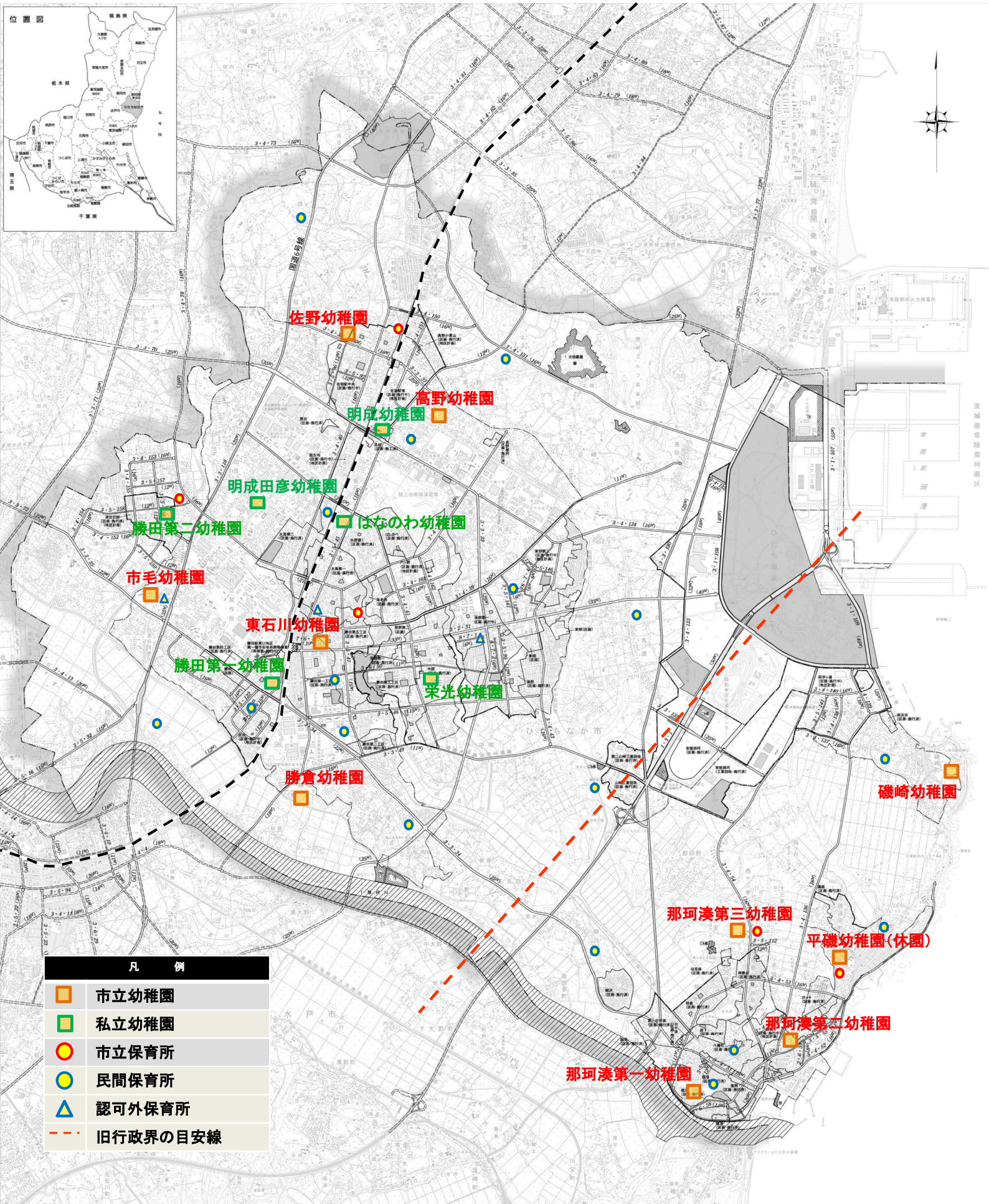
本市の市立幼稚園は、平成32年度末までに、勝田地区においては佐野・東石川幼稚園、那珂湊地区においては那珂湊第一・那珂湊第三幼稚園に再編します。

市立幼稚園の再編は、保護者や地域への説明を行うとともに、入園希望者にも十分配慮しながら計画的に取り組むものとします。

〈市立幼稚園再編計画〉

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
勝倉幼稚園		園児募集停止	年度末閉園	
市毛幼稚園		園児募集停止	年度末閉園	
佐野幼稚園			拠点となる園	→
高野幼稚園		園児募集停止	年度末閉園	
東石川幼稚園			拠点となる園	→
那珂湊第一幼稚園			拠点となる園	→
那珂湊第二幼稚園		園児募集停止	年度末閉園	
那珂湊第三幼稚園			拠点となる園	→
平磯幼稚園	休園中	休園中	年度末閉園	
磯崎幼稚園			園児募集停止	年度末閉園

ひたちなか市 教育・保育施設一覧図



凡 例	
	市立幼稚園
	私立幼稚園
	市立保育所
	民間保育所
	認可外保育所
	旧行政界の目安線



茨城県常陸那珂市